

ここう庵 1964年 8月24日

宗淵
親愛なる老師様

過去一ヶ月、私達にとって重大事件であった事に関する、これが最後の手紙です。 私は貴方の手紙を待って、将来についての貴方の最終的ご意見、指示を仰ぎます。

今日、池永さんがお見えになりました。 タイさんがここう庵を出て以来世話をした人です。 彼は、たいさんから、エイトケンが女々しく、自分に対する非難を相談することなく、日本へ行った等の痛烈な言葉を聞かされました。 彼はタイさん側からの、全ての話を知っており、タイさんはこの同じ話を、ここう庵の 二三の古い馴染みのメンバーにも話して聞かせたとの事です。

私は医者から警告を受けて以来の事情を彼に話し、これをタイさんに話す機会が無いままに、彼には他の方角へ行くと言って日本へ行き、これを秘密にしておこうとして、これも又失敗、是等一切の悔いを彼に話しました。

私は、もうこの事を書きたくはありません。 私は貴方の手紙を待ちます。 私は安谷老師には、礼儀正しい手紙以外、書く事は出来ません。 なぜなら、彼には翻訳者が必要だからです。 ですから、私には、貴方がたお二人の老師がどのように考えておられるのか分かりません。 もし、この一ヶ月程の間に、便りを頂けなければ、私はいつ子さんに、貴方に電話をかけて尋ねてもらおうよう頼みます。

金曜日の夜、■■■■ は、私達を映画に誘いました。 それで、私達は映画の前に彼女を夕食に招待しました。 ドクター古川は、彼女に私達が全ての経緯を知っている事を話しましたが、彼女はそれでも、私達と友達である事を望んでいます。 彼女は事件に関する事は、なにも話しませんが、唯一言、“熱情を征服するには、熱情の犠牲にならなければならない”と言いました。 多分、そう言う事なのでしょう。 彼女はハワイを去り、カリフォルニアへ帰る事を考えているようです。

私達は、集会と、日に二度の坐禅を続けています。 昨日は、第四日曜日だったので、終日坐禅を行う日なのですが、午後はアーブとアンと私だけが座りました。 時々参加する他の三人は、午前中のみ座りました。

全ては、精神的健全性に影響して行くものです。 もし女性が、セックスを求めて僧の処へ来たのであれば、彼女達はセックスを得たのであり、その結果、精神衰弱に陥る事は無い筈です。

■■■■ は毎週のように、昨日も通り掛かりに私達を尋ねましたが、見た所、症状が悪化している様子で、座る事も出来ませんでした。 彼女は病院で、新しい治療を始めたそうですが、これが彼女の憂鬱を、深めているようでした。 たぶん、治療の初めには当たり前の事なのかもしれません。 アンは今日の午後、彼女に会いに行きました。

どうか私の為に、一時を費やして、手紙を書いて下さい。 老師様、短い手紙で十分なのです。